

ふりがな 氏名	しらい たつま	都道府県	神奈川県	
	白井 龍馬			
所属/肩書	横浜女学院中学校高等学校 教諭・ ESD推進プロジェクトチームメンバー			
私のESD活動	教科横断型の授業やワークショップを積極的に行い、 生徒の価値の転換や「6つの力」の養成に努めています			
ESD活動を 表すキーワード	教育	人権	価値の転換	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は横浜女学院中学校高等学校にて ESD 推進プロジェクトチームメンバーとして活動しています。本校は本年度SGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイト校として文科省に認定を受けました。その申請にあたり中心に据えた教育の概念がESDです。その推進メンバーとして、様々な活動をしてきました。

まず、自己研鑽のために多くの研修に参加しました。上智大学の小松先生には学校にお越しいただき、ESDの意義についてご説明いただきました。自身が抱いているESDに関する考えを質問させていただける場もあり、非常に濃密な研修でした。また開発教育協力の上條様が本校生徒に向けて貿易ゲームの実践をして下さった際にはその場を見学させていただき、次回は自身がファシリテーターになるつもりでその活動を拝見させていただきました。価値の転換を図るワークショップの可能性に、改めて強く興味を持ちました。

次に、日々の授業においてESDの視点を多く取り入れています。ESDの視点を生徒に感じてもらうためには、単一教科の領域を越えていく必要があると感じています。したがって他教科の先生と協力することによって、クロスカリキュラムの形態をとった授業を展開することを行っております。実践例としては、理科の先生と協力し最新の理科の論文を生徒に読ませる活動をしました。しかしその論文は実は統計的な信頼妥当性に欠けており、それについて生徒たちに考えてもらうことで、「データや情報の分析能力」を養うきっかけを作ることができた、と考えています。

・横浜女学院中学校・高等学校 <http://www.yjg.y-gakuin.ed.jp/blog.html>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

ESDを意識したクロスカリキュラム(教科横断型)の授業を数多く展開しようと考えています。そのためには他教科の先生との相談が不可欠であり、その相談の場を充実させるためにも他教科の先生にはESDについてより深く知っていただかなければなりません。よって自身ができるだけ多くの研修に参加し、あるいは書籍に目を通し、その内容を他教科の先生方に伝えていきます。

また、できるだけ生徒が持続可能な発展ということばを直接感じる場を用意したいと考えています。今までには文化祭におけるフェアトレード商品の販売など行ってきましたが、そのような活動の場をより多く展開していきたいと思います。